

クリエイティブな発想・企画が
生まれるミュージアム

画像提供：丹青社
撮影：フォワードストローク

支援会員制度

KCMパートナーズのご案内



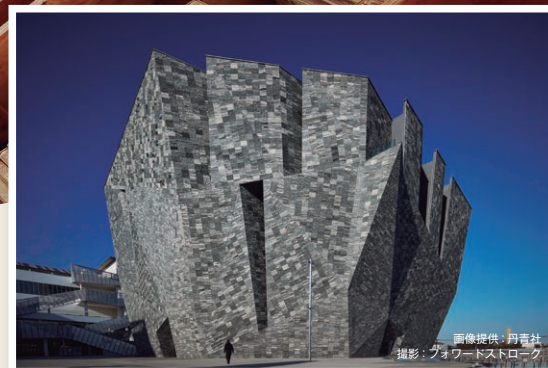
角川武蔵野ミュージアム
Kadokawa Culture Museum

公益財団法人
角川文化振興財団
Kadokawa Culture Promotion Foundation

本棚劇場

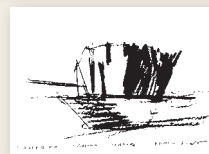
約8メートルの巨大本棚に囲まれた図書空間。KADOKAWAの出版物のほか、角川源義、山本健吉、竹内理三、外間守善の個人文庫など約3万冊が配架されている。「本と遊び、本と交わる」がコンセプトのプロジェクトマッピングも上映され、本の内容が表紙の外に飛び出してくるような、音と映像の体験が味わえる。

画像提供：丹青社
撮影：フォワードストローク



画像提供：丹青社
撮影：フォワードストローク

角川武蔵野ミュージアムの建築デザインは、日本を代表する建築家・隈研吾氏が手掛けました。隈氏の建築作品の最大の特徴は、自然素材の大胆な使用です。時を同じくして、2019年に竣工した国立競技場が「木」を多用した巨大建築であるのに対し、角川武蔵野ミュージアムは「石」をテーマに造られました。



角川武蔵野ミュージアム
Kadokawa Culture Museum

埼玉県所沢市の「ところざわサクラタウン」内に2020年11月6日にグランドオープン。

美術・博物・図書を“まぜまぜ”にする、前人未踏のプロジェクト。イメージネーションを連想させながら、リアルとバーチャルを行き来する複合文化施設です。ミュージアムの骨子を固めたのは館長である編集工学者の松岡正剛、博物学者の荒俣宏、芸術学・美術教育の研究者である神野真吾、建築家の隈研吾。かつてない革新的なミュージアムが誕生しました。



公式ウェブサイト
kadcul.com

想像するミュージアム、
いま、新たな文化の創造へ。

このミュージアムでは想像力と創造力が出会います。想うこと、愉快なこと、作りたいことが浮かびます。たくさん本がひしめきます。

マンガと学術書が一緒になっています。

アートと映像と歌がいろいろ組み合わさっています。

武蔵野の風土と歴史がよみがえり、私たちの日々とまじりあいます。

このミュージアムでは、

空想と連想が文化を発信するのです。

今日の日本には、独特の文化を新たに組み立てていく工夫が望まれます。

公と民と共が連携し、経済と文化をつなぎ、

ハイクルチャーとサブカルチャーが手を取りあって、21世紀の日本を存分に

おもしろくさせたいと希っています。

角川武蔵野ミュージアムがお役に立てればと思います。

角川武蔵野ミュージアム館長 松岡正剛

角川武蔵野ミュージアム アドバイザリーボードメンバー



館長/
松岡正剛

オブジェマガジン「遊」編集長、東京大学客員教授、帝塚山学院大学教授などを経て、現在、編集工学研究所所長、インス編集学校校長。80年代「編集工学」を創始し、日本文化、経済文化、物語文化、自然科学、生命科学、宇宙、デザイン、意匠図像、文字などの諸分野をまたいで関係性をつなぐ研究に従事。その成果を、様々な企画、編集、クリエイティブに展開している。



©J.C. Carbone
隈研吾

東京大学建築学科大学院修了。東京大学教授。1964年東京オリンピック時に見た丹下健三の代々木屋内競技場に衝撃を受け、幼少期より建築家を目指す。これまで20か国を超す国々で建築を設計し、国内外で様々な賞を受けている。その土地の環境、文化に溶け込む建築を目指し、ヒューマンスケールのやさしく、やわらかなデザインを提案している。



神野 真吾

東京藝術大学美術学部芸術学科卒業、同大学大学院美術研究科を修了（美学専攻）、山梨県立美術館学芸員として11年間勤務。同館在籍中に「現代美術百貨展」「新版／日本の美術」「ポール・ホリウチ展」などの現代美術展を手がける。2006年から千葉大学に准教授として勤務し、社会とアートの関係についての研究や実践に取り組んでいる。



荒俣 宏

作家、翻訳家、博物学・妖怪研究家、風水師。慶応大学法学部卒業後、日魯漁業（現マルハニチロ）に入社。コンピュータ・プログラマーとして10年間のサラリーマン生活をおくる。その間、紀田順一郎氏らと、雑誌「幻想と怪奇」を発行。英米の幻想文学などを翻訳しつつ、評論も展開。独立後は翻訳、小説、博物学、神秘学などジャンルを越えた執筆活動を続ける。

企業における KCMパートナーズの活用例

CSR（企業の社会的責任）として

近年、SDGs（持続可能な開発目標の略称）の広がりもあり、企業による社会貢献活動により一層注目が集まっています。

角川武蔵野ミュージアムでは、図書館・博物館・美術館が融合した生涯学習の場として地域住民の若者や次世代を担う子供達に文化を伝えていくべく、先進的な展覧会の実施・教育普及活動に積極的に取り組み、SDGsの目標の一つである「質の高い教育をみんなに」に寄与していきたいと考えています。KCMパートナーズにご入会いただくことで、社会や地域住民に貢献していくことが可能になります。



福利厚生として

特典には常設スペース・企画展の招待券が含まれていますので、これらを社員に配布することで、松岡正剛事務所が運営した約2.5万冊を配架するエディットタウンそして本棚劇場を利用することができます。また、アートに関心がある社員には定期的に開催する展覧会を鑑賞する機会を提供することもできます。TVなどでも注目されている話題の施設を使って、福利厚生を充実させてみませんか？



寄附金の使途



寄附金の活用例



- 先進的な企画展の開催
- 関連するイベント運営など



- ラーニングプログラムの開発・運営
- 季節イベント・ワークショップ企画・運営など

企業とミュージアムが連携する新しい文化支援 「KCMパートナーズ」のご案内

角川武蔵野ミュージアムを拠点として継続的に展覧会やイベントを開催していくにあたり、皆様からのサポートを必要としています。そのために、法人様向けの支援システム「KCMパートナーズ」を設立しました。

KCMパートナーズは企業ごとのニーズに合わせた連携を提案し、一緒にミュージアムを作り上げる新しい支援システムとなっており、資金支援や物質的な支援、人的な支援など、多種多様な支援形態が選択可能です。ミュージアムを運営する角川文化振興財団は公益財団法人の認定を受けており、ご支援の形態として資金支援（寄附金）をお選びいただいた場合、一般の寄附枠とは別枠で損金算入が可能です。

特別賛助会員	プラチナパートナー	10口以上（300万円以上）
賛助会員	ゴールドパートナー	5口以上（150万円以上）
特別支援会員	シルバーパートナー	2口以上（60万円以上）
支援会員（地域企業限定）	ブロンズパートナー	1口以上（30万円以上）

ご支援形態 寄附金

当財団へのご寄附は一般の寄附枠とは別枠で損金算入できます。なお、寄附金の場合は広報特典のみのご提供となります。

ご支援形態 経費

対価性のある特典を受けることができます。詳細は下図をご参照ください。

		寄附金として				御社の経費として（対価性のある特典が受けられる）			
		プラチナパートナー	ゴールドパートナー	シルバーパートナー	ブロンズパートナー（地域限定）	プラチナパートナー	ゴールドパートナー	シルバーパートナー	ブロンズパートナー（地域限定）
		300万円 以上	150万円 以上	60万円 以上	30万円 以上	300万円 以上	150万円 以上	60万円 以上	30万円 以上
広報特典	常設展招待券（年間）	100枚	50枚	20枚	10枚	100枚	50枚	20枚	10枚
	企画展招待券（各回）	50枚	25枚	10枚	5枚	50枚	25枚	10枚	5枚
	図録（制作する場合）	10冊	5冊	2冊	1冊	10冊	5冊	2冊	1冊
	内覧会へのご招待	○	○	○	○	○	○	○	○
	企業名の提出	○	○	○	○	○	○	○	○
その他の特典	スペース利用	寄附金の場合 対価性のある特典の提供がありません。				2回	1回	1回	—
	武蔵野樹林広告出稿					2P	1P	—	—

公益財団法人
角川文化振興財団

1976年2月25日、角川書店の創業者であり、国文学者・俳人としても著名であった角川源義の遺志に基づき創設されました。設立以来、40年以上の永きに亘り、文芸・美術・映像等に関する顕彰、助成、啓蒙活動を行ってまいりました。2020年に複合文化施設「角川武蔵野ミュージアム」を所沢市にグランドオープン。これは、文化・芸術の振興及び活気ある個性豊かな地域社会の発展に貢献することを目的として建設したものです。当財団は武蔵野・所沢の地を新たな拠点として、今後とも日本文化の振興に寄与する機関であることを願い、活動していく所存です。

特典のご紹介

企業名の掲出

ミュージアム2階に設置している寄附プレート、公式ウェブサイトにて企業名を顕名します。



ミュージアム内スペースの利用

経費計上の
場合のみ

ミュージアム内のミーティングスペースをご利用いただくことができます。（レクチャールーム、ワークショップルーム）



武蔵野樹林広告出稿

経費計上の
場合のみ

角川武蔵野ミュージアムのコンセプト発信と催しの数々を紹介するマガジンとして2018年に創刊した「武蔵野樹林」への広告出稿枠をご提供いたします。

KCMパートナーズの
詳細な資料をご用意しています。
まずはお気軽にお問い合わせください。

公益財団法人角川文化振興財団
渉外チーム

donation@kadokawa-zaidan.or.jp

